



脱法ハーブティーでチマメ隊 昏睡レイプ



週末の夜。出張お泊り会でチマメ隊がやって来た。  
変なチーム名だが名付けたのはリゼ先輩らしい。  
出張お泊り会とは一万円払ってチマメ隊が  
一晩お泊り会してくれろというサービスだ。  
もちろん完全に健全で猥褻が一切無い。

チマメ隊の通ってる学校はバイトが禁止で、  
「小遣い簡単に稼ぐ手段って何かない?」と  
マヤって子がシャロちゃんに相談した結果  
謎の新業態の発足に至ったとのこと。

こんな絶対あの甘味処の店員の発案だとか  
思っていたが、発案者がシャロちゃんですビックリ。  
何か違和感のようなものを感じていたのだが  
シャロちゃんからの紹介なので迷わず承諾した。



そんなのに一万もの大金を払う大人がいるの？  
とチマメ隊は半信半疑だったようだが美少女を  
三人、十時間拘束して一万円ならむしろ安い。  
チマメ隊は一人あたり二千元しかもらえず  
残り四千元はシャロちゃんを取り分となるが  
彼女らにとっては二千元でも十分な額らしい。

ちよつと前の自分ならば女の子を家に呼ぶのに  
とても緊張しただろうが、最近仲良くなった  
リゼ先輩を家に呼んだりしてることもあって  
そこまで緊張しないで済んでいる。

そもそもチマメ隊は見た目が中学生っぽいので  
元から緊張するような話ではないのだが。  
あれでリゼ先輩の三つ下とか信じられない。  
たった三年でそこまで成長するとは思えない。



お泊り会の二日前。自分の頭の中でチマメ隊はもはや完全に中学生扱いで今時の中学生女子の好みってなんなんだろうとか考えていた矢先、シャロちゃんから急な呼び出しのメールが。場所はシャロちゃんと初めて援交した時に利用した例の甘味処の隣の物置小屋である。これはもう援交のお誘いに間違いない。

これまで毎月一万円シャロちゃんに貢ぎ続けてきた甲斐があったと浮かれていたのも束の間、呼び出された理由の説明に愕然とする。

シャロちゃんの話は援助の要求とかじゃなくて性犯罪の教唆とか幫助とかそういう類だった。マヤとかいう生意気な小娘を辱めて欲しい。シャロちゃんはそう言っ、ハーブティーとハーブ入りのクッキーを手渡して来た。



ハーブティイーとクッキーは自分へのプレゼント  
……ではなくて、チマメ隊に使えとの「じよ」。  
クッキーは食べると数分後に寝てしまう。  
ハーブティイーは眠りを深くする効果。  
ハーブは全て自家栽培のものらしい。

ココアで何度も実験したから効き目は保証すると  
言ってたが、ハーブをココアに混ぜると？

まるで意味がわからない。後で判ったことだが、  
ココアとは人名のことだったらしい。紛らわしい。

ハーブの効能は二回目以降は弱くなるので

確実に一回で成功するように念押しされた。

どうやって断ろうかと迷ったが、シャロちゃんの

尋常ならざる執念に押し切られてしまった。

マヤっ子にはシャロちゃんに何したんだらうか？





シャロちゃんの話によると、シャロちゃんの前で  
リゼ先輩の胸をいやらしく揉みしだいたという。  
「リゼっておっぱいおっきーよなー」  
「何食べればそんなに大きくなんの?」  
そんな軽いノリでシャロちゃんに当てつけるように  
リゼ先輩に対してセクハラを繰り返してたらしい。  
で、さらに腹立たしいことにリゼ先輩はマヤって  
クソジヤリに対して怒ったりしなかったくせに、  
シャロちゃんもリゼ先輩の胸に触ろうとしたら  
やめろと拒絶され凄くショックだったと。  
おそらく間が悪かったんだらう。  
リゼ先輩は気前よく胸触らせてくれるけど  
執拗に触っていると急に怒り出したりするし。  
もしくはシャロちゃんの目付きが怖かったのか。





缶コーヒーをグビグビ飲みながら語ってるうちに急に泣き出すシヤロちゃんをなだめながら、リゼ先輩にシヤロちゃんにも胸さわらせてあげてと頼み込めばなんとかなるだろうかと考えた。だが、それも関係バレのリスクがヤバすぎる。

リゼ先輩が胸揉まれただけでここまで取り乱すってことは、自分がリゼ先輩にそれ以上のことしちやったのがもしシヤロちゃんにバレたら一体どうなるのか怖くて想像できない。

……と、こんな感じでシヤロちゃんに逆らえず、畏にハメる準備をしてチマメ隊を迎えたのだがいざという場面になって重大な問題が発覚した。マヤっていつのは、この三人の中の誰なんだろう？



一応、チマメ隊には自己紹介してもらった。

「私のことはリゼって呼んでくれよなー!」

「あ、じゃあ、私はシヤロで」

「二人とも先にずるいです。えと、私は「三……」

じゃなくてチヤでお願いします」

なんか聞き覚えあるような名前が並んでいる。

三人とも偽名を名乗ってくるとは思ってなかった。

たしかチマメ隊というの三人の本名が由来らしい。

であれば左から順番にチ、マ、メではなからうか。

おそらく真ん中こそがマヤである可能性が高い。

しかし即断は禁物である。

シヤロちゃんに確認とればいいと思ったが、以前シヤロちゃんに着信拒否されたまままで向こうから連絡は届いてもこちらから連絡できない状況だ。





焦って挙動不審にならないように心がけよう。  
まずはシヤロちゃん手製のお茶とお菓子だ。

「あ、シヤロさんのお店の品ですね」

「ダメだよチャちゃん。シヤロは私だよー？」

それらはシヤロちゃんがお店の機材を使って  
ラップピングしているので、あたかもフルールで  
購入した品々のように見える。

ご丁寧にクッキーはハーブ抜きも用意されてる。  
見た目は一緒だ。自分も同じ物を食べれば  
クッキーを警戒されないだろうという配慮か。

ハーブティーは漢方薬を煎じたような匂いだが  
これはリラックス効果のあるハーブティーと、  
美容と成長促進に効くハーブティーをブレンド  
したものらしいと説明したら三人とも我慢して  
飲み干してくれた。これで第一関門クリアー。



妙な味のお茶を飲みながらチマメ隊が眠るまで  
どんな話題で時間潰すか考えていた矢先、  
「なー、なー？ おっさんってばこんなのに  
一万も払って何が楽しいの?」  
自称リゼから不躰けな質問が飛んできた。  
おっさんって歳にはまだ早いのだが。

「フヒヒ」。おっさんはね、リゼちゃんの匂いが  
染み付いたお布団で寝るのが大好きなんだ」

……あれ？ 今、俺は一体なにを口走った？  
どう返答するか迷う前にわけのわからんことを  
喋っていた。実際、リゼ先輩の汗やらが付着した  
シャツやタオルとかはすぐに洗濯しないで  
その日はそれにくるまって寝たりするけども。  
これは人に（特にシャロちゃんにはいろんな意味で）  
絶対に知られたくない秘密である。

ティーカップを持った手が震える。  
リラックス効果があるといってたが  
もしやこのマジックハーブティーには  
不思議な成分が含まれている？

「なるほどー。じゃあ三人で布団に  
寝転んでやるからチップ弾んでよー！  
裸になってくれたら一人千円だ」  
「オツケーー！」

即答だった。他の二人もなすがままに  
自称リゼによって服を脱がされていく。

このハーブティーは危険だ。自分でも  
判断力が低下してるのを感じられる。  
変な後遺症や依存症とかないか  
不安になってくるレベルだ。





「男の人の前で裸になるのって緊張する……」

ドキ

ドキ

An anime-style illustration of three young women in a bathhouse. The central figure is a girl with short, light blue hair and large, bright blue eyes. She is nude and looking directly at the viewer with a neutral expression. To her left, a girl with short reddish-brown hair and reddish-brown eyes is looking towards the blue-haired girl, her hand near her face. To the right, a girl with short dark blue hair and large golden-brown eyes is looking towards the blue-haired girl. All three girls are wearing light green towels. The scene is set in a bathhouse, with steam or water droplets visible in the air.

「エッチな目で見ないでください」



「寝るだけでお金もらえるとか楽勝じゃん！  
この仕事、私に向いてるかも」

「他になんかして欲しい」とある？  
エロい要求以外なら何でもいいよー！」

ぐろん



「あの……ちよつと眠くなってきたので  
もうっパジャマに着替えていいですか？」

むっ





「なんだよシヤロ、まだ夜は長いぞー！  
早く寝ちやったら稼げないじゃんか。  
なあ、チ……名前なんだっけ？  
チヨもそう思うよな？」

ぽおー



すゝ

すゝ

自称チヤの返事がない。クツキーが効いたようだ。

悪用したら大変な代物だ。……自分の場合は

家に呼べるような女の子がリゼ先輩くらいしか

いないから使い道なんてないんだけども。



気付いたら自称リゼも静かになっていた。  
自分がりゼ先輩に使う意味はないけど  
シヤロちゃんはどうかだろうか？

ズズズズ...

すーっ

もしやシヤロちゃんはりゼ先輩に  
食べさせて何かする目的でこんな  
クッキーを作り出したのでは？



着替える途中で電池が切れたように  
倒れてた自称シャロちゃんを寝かせる。

その際に不可抗力を装って胸を揉んだり  
してみたけど全く目覚める気配はない。

ぎゅっ

開脚させてみても嫌がらない。  
寝たフリではないようだ。

まず気になることがあるので  
先に確認をしておこう。



一旦、チマメ隊は放置で二人の鞆を漁ることにする。  
ストーリーカーとしての本能が俺を突き動かしている  
とかじゃなくて単純に身元確認が目的である。

まあ、偽名を使ってた時点で予想はしていたが  
個人情報をも特定できる持ち物は見当たらない。  
代わりに催涙スプレーやスタンガンといった  
護身グッズがごろごろと。それも軍用仕様のが。

催涙スプレーは失明の危険がある強力さで室内では  
自爆の危険から使えないとリゼ先輩が言ってた代物。  
針を射出して致死性の電流を流すテイザーガンやら  
どれも民間人が持ってちやダメなやつばかりだ。

以前、リゼ先輩が軍のキャンプに出稼ぎに行こうと  
計画していて護身グッズを準備したが無駄になったと  
語っていたが、それらがチマメ隊に貸与されたらしい。



対象の人命を一切考慮していない過剰な装備からチマメ隊はリゼ先輩から相当心配されている様子。

いざとなつたらマヤが誰なのかりゼ先輩に尋ねようと考えていたが、もしチマメ隊がお泊り会してる場所が過去に援交歴のある男の家だと気付かれたりしたら即、武装したりリゼ先輩が突入してきそつた。

素っ裸で意識のないチマメ隊の姿を確認した途端、無警告で発砲してきてもおかしくない気がする。リゼ先輩の家は警察やヤクザより怖いお家なので人間一人を行方不明で処理するのも容易だろう。リゼ先輩に聞くのはナシだ。マヤを特定するのは諦めて、もう三人まとめて犯してしまうしかない。

後で考えるとまだ他に手段はあったが、この時はハーブティーの影響で冷静じゃなかったらしい。



次回

昏睡レイプ写真を使って  
チマメ隊を脅迫レイプ！

下校途中に突然  
身に覚えのない  
写真で脅され...

！？

つづく



## 前回に関連したキャラクター紹介



シャロ

バイト先の喫茶店にセクハラ常習犯が出没して精神的に追い詰められてる不憫な女の子。お嬢様学校に通ってるが一人暮らしで生活は質素。兔が苦手。同じ学校に通うリゼ先輩のことが好き。カフェインで酔う特殊体質だが、なぜか紅茶は平気。

バイト先からの帰り道、常連客の男に自宅近くまで尾行されたのに気付いて一人で怯えていたのだがそれを幼馴染に相談したのが大きな間違いだった。



千夜

シャロと家が隣同士の幼馴染。怯えるシャロにお茶(カフェイン濃いめの玉露)を飲ませて、「このままでは暴行されちゃうのは時間の問題。レイプ被害をシャロちゃんの学校に知られるよりいっそ自分から援助交際を申し出たほうがお金も得られて怪我せず安全」と洗脳する。

家が甘味処でフランチャイズ展開を夢見ており女衞の真似事はあくまでサイドビジネス。援交の斡旋もシャロの困窮を見かねたからで一切の悪意が存在していない天然鬼畜。



ストーカー♀

本名不詳。職不詳。住所不詳。神出鬼没の変態痴女。日常的に泰然とシャロのスカートをめくったりしており常連客仲間からセクハラマウンテンと讃えられている。

喫茶店を何度も出入り禁止にされてるはずなのだが出版社に強いコネがあるらしく、店に圧力をかけて出禁を取り下げて不死鳥の如く舞い戻ってくる。

喫茶店でバイトしてるシャロに一目惚れして以来、外回り中に時間を見つけて喫茶店に入り浸る若い男。ストーカー♀とはシャロについて熱く語り合う仲であり、セクハラしてないけどシャロから同類と警戒されていた。

シャロの近所に住んでおり、シャロと喫茶店からの帰り道が偶然一緒になり尾行していると勘違いされ、甘味処の店員に捕まりシャロと援交する流れに……。



ストーカー♂

前々回のあらすじ

カフェインは合法ですか？

Is caffeine legal?

流されるまま援助交際に挑戦したシヤロだが  
経験のない素人であることを理由に値切られ  
一万五千円で処女を買い叩かれるばかりか、  
ゴム着用の上で一回のみの条件にも関わらず  
カフェインの錠剤を飲まされて強引に  
生挿入され何度も中出しされてしまう。



千夜

貰ったお金の二割を仲介料として受け取る約束をシャロとしていたのだが三千円しか貰えなくて、「自分を大切にしなきゃダメ」とシャロに説教する。

足元見られないように援交相手の代わりは他にもいることを強調して男が図に乗らないようにする、デートの誘いはタダでセックスさせろという厚かましい要求だから絶対に受けちゃダメ、定期的に与える餌は穴の空いた靴下で十分など男から金を巻く手管を細かく指示するのだった。

初体験がトラウマとなり男性恐怖症気味になる。そのせいかガチレス化が病的に進行している。



シャロ

ストーカー♂から何度も性交渉の要求?が来る度に拒否しているが、いきなり乱暴されやしないかと不安で眠れぬ日々を過ごしている。

不眠症を解消するため自家製ハーブティーのレシピ作りを寝る間も惜しんで没頭しており、最近知り合った女の子が喫茶店に来た時に試しに実験で飲ませてみたら一口で昏倒して店に救急車を呼ぶ呼ばないの騒ぎとなった。

ストーカー♀

奇行がエスカレートして警察に通報される。留置場内でシャロをモデルにした官能小説を暇潰しに書いてたら後にそれが大ヒット。

シャロとの援交で童貞卒業してからというもの、シャロが生活苦から援交しなくてもいいように千夜を通してシャロに金を貢ぎ続けている男。交渉時の値切りやハッターリはほとんど職業病。シャロと仲良くなろうとアプローチを続けてるがなぜか意思疎通にズレがあって全く進展しない。



ストーカー♂

シャロは同じ学校の先輩のことを好きだと千夜から聞かされ先輩とやらの敵愾心を抱く。

# 前回のあらすじ

シヤロちゃんの横暴に逆らえないまま指一本  
触れさせて貰えず悶々とするストーカー♂に  
甘味処の店員が耳元で怪しくささやく。

「意地悪なシヤロちゃんに仕返ししたくない?」

ツインテールお嬢様と慰安訓練



# 表に出てくることのない裏設定



ストーカー♂

ブラック企業で外回りやってる二十代前半の男。値切り癖は無意識の職業病。取引先の町工場を買い叩きすぎで倒産させ、一家離散に追い込んでしまったことがトラウマになって精神を病んでいる。そのせいか両親のいないシャロの境遇に過剰に同情してしまっているところがある。癒やしを求め仕事の合間をぬってはフルールに入り浸る。

ストーカー♀と一緒にシャロを変な目で見てはいたものの、当初はシャロに恋愛感情こそ抱いていなかったのだが、シャロとの援交で童貞を卒業したことで変な方向にこじらせてしまいストーカーとして本格的に覚醒してしまう。

シャロのことを『お金のためなら誰とでも平気で援交しちゃうビッチ系女王様』だと思い込んでてシャロが生活苦から安易な援交に走らないよう毎月一万円の仕送りをしているが、シャロからはお金を送られる理由が不明で気味悪がられてる。



ストーカー♀

シャロを精神的に追い詰めている原因の筆頭。ストーカー♂とは仲良く談笑していることが多く友人からは彼氏ではないかと疑われたりしてるがもっと年上の男性が好みで年下は恋愛対象外。非処女でガチレスではないはずだがシャロに対して異常な執着を見せる。

高校生の頃に信頼していた人物から裏切られて男性不信に陥り、ずっと引き籠もっていたのだが出版社に勤める友人の支えもあって小説家として社会復帰に成功した過去がある。しかし、その人格はいまだ壊れたままであった。

性的衝動に素直になることに非常に肯定的。シャロをモデルにした官能小説の新ネタが思いついたら、シャロのいるフルールを訪れて興奮しながら新ネタをシャロに披露したがる。

# 表に出てくることのない裏設定

小さい頃、偵察と称して近所のカフェを覗きにいった時経営難に自暴自棄になっていた店のマスターが客の女子校生に襲いかかっていた場面を目撃してしまう。それが後の人格形成に悪影響を及ぼしたのか、副業として援交の斡旋を手がけるようになった。シャロを精神的に追い詰めてる原因の三番手。



シャロちゃんの隣人

バイトが大変そうなシャロちゃんをサポートしてあげられるようにストーカー♂を紹介したのにシャロちゃんが相場よりずっと安く買い叩かれたり、お金に困っていたリゼちゃんに援交をすすめるようにストーカー♂に相談したのに仲介手数料を介さない関係を勝手に結んだりでストーカー♂との仲はかなり陰悪なものになっている。

父親が軍人のお嬢様、軍人が本土から離れた土地で豪邸に住んでる事実は世界観を難解にしている。ファザコンの気があるが最近は反抗期気味。父親のワインを割ってしまったから売春して稼ごうと計画していたあたり貞操観念と経済観念は緩い。



リゼ先輩

ストーカー♂とは三十万円で愛人契約を交わし定期的にデリヘルみたいなことをしている。風俗嬢やAV女優の真似事を強要されてもなんなくこなすが攻められるのはちょっと苦手。異性と触れ合うことにそれほど抵抗はないけど同性のシャロからの視線は怖いと思っている。シャロを邪険にしているということはないのだがシャロを精神的に追い詰めてる原因の四番手。

ストーカー♂はリゼ先輩のバイト先に興味津々だが援交するような男をチノに近づけたくないためラビットハウスには近付かないよう警告している。

男に要求するハードルが高すぎることもあってか、ストーカー♂には異性として魅力を感じておらず好意を寄せられても仲が進展する気配は全くない。